

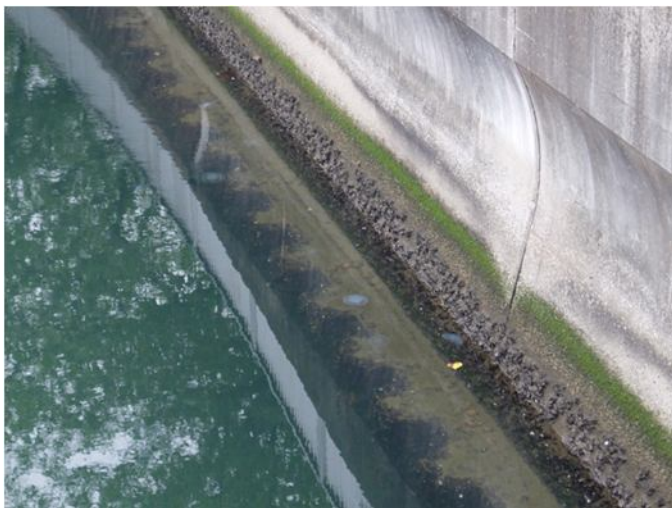
## 「門前仲町のクラゲ・大横川の干満(2)」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

門前仲町の大横川は、潮の満ち引きの影響を直接受けて、水位が2メートル超上下する。



写真は干潮の時の大横川だ。水位は大きく下がり、普段は水面下の護岸の構造物が見えてくる。護岸が湾曲しているのは、高潮や津波の対策である。実際にチリ沖の地震の時には、東京港にも波高約1.2mの津波が来襲した。江東区では、外洋に面した場所や、海に直接つながっている河川や運河には、最低でも4mの護岸が設置されている。



よく見ると、ポリ袋のような半透明の物体がたくさん浮かんでいる。これはクラゲ(ミズクラゲ)である。ミズクラゲは海水性のクラゲだが、干満の差が激しい大潮前後の日には、汽水域の大横川にも姿を現す。好んで泳いだけではなく、クラゲは泳ぐ能力が低いので、潮流に流されて入ってきてしまうのだ。



「ミズクラゲ」*Aurelia* sp. 門前仲町産

一応弱弱しく収縮しているのは観察できる。しかし、汽水域とはいえ、ミズクラゲは海水性である。塩分濃度が低い大横川では、体液濃度を維持できず、かわいそうだが、長くは持たないだろう。



更に驚いたのは、護岸に露出したフジツボを、スズメが餌にしていたことである。(写真の○印) スズメが器用にとまっているのは、磯でいえば「潮間帯」に相当する部分だ。一日2回、フジツボを食べられることを知っているのだろう。「クラゲを観察できる駅・門前仲町駅」なかなか面白いと思う。